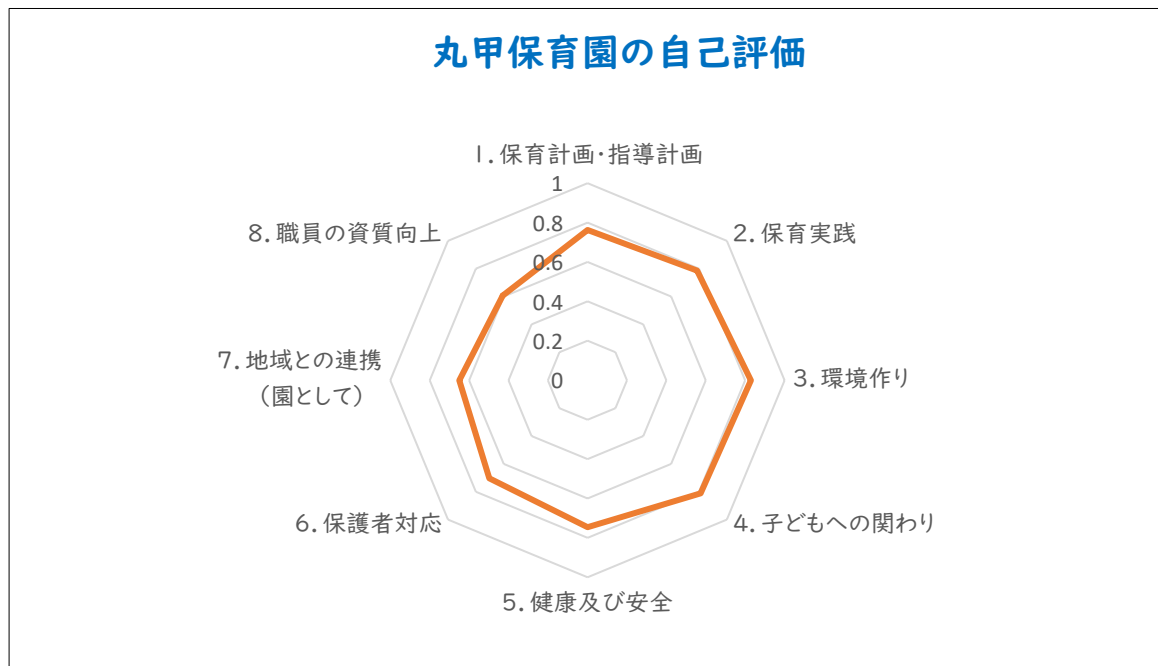


保育所保育指針では、保育の質の向上を図るため、「保育の計画の展開や保育士の自己評価を踏まえ、保育の内容等について、自ら評価を行い、その結果を公表するように努めなければならない。」ことが明記されています。当園では組織として自己評価に取り組みましたので公表します。



【総評】

○少人数保育園のため一人ひとりとゆっくり関わることができ、子どもの思いを大切に丁寧な保育をすることができました。保育士と深い信頼関係が生まれ、情緒が安定しました。

○3・4・5歳児合同の異年齢保育により、自然に年下児を気遣ったり、年上児に憧れを持って自分のできないことにも挑戦したりする姿が見られました。保育士主導ではなく、子ども達の自由な発想を大切にすることができました。

○丸甲小学校1年生と月1回遊びの日を実施しました。また、より連携を密にするため小学校長・幼稚園長・児童館長に保育園見学をして頂き、意見交換を行う等小学校との円滑な接続を実現しました。

「ジュース屋さんごっこ」



「粘土遊び」



「散歩」



【今後の課題】

○研修参加、文献学習、他の保育園の見学等でそれぞれが専門性の向上に努めましたが、もっと積極的に自己研鑽しなければいけないと感じた保育士も多かったため、今後内部研修をより充実させることで保育の資質向上に努めていきたいと思います。